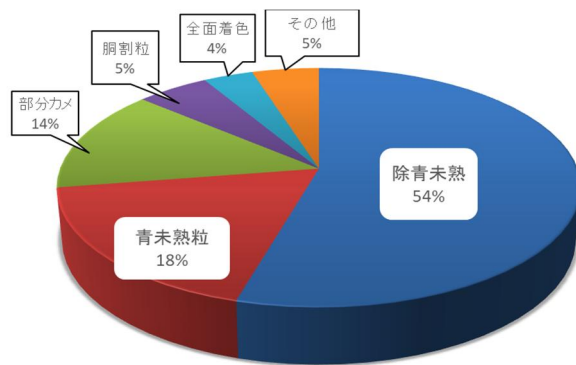
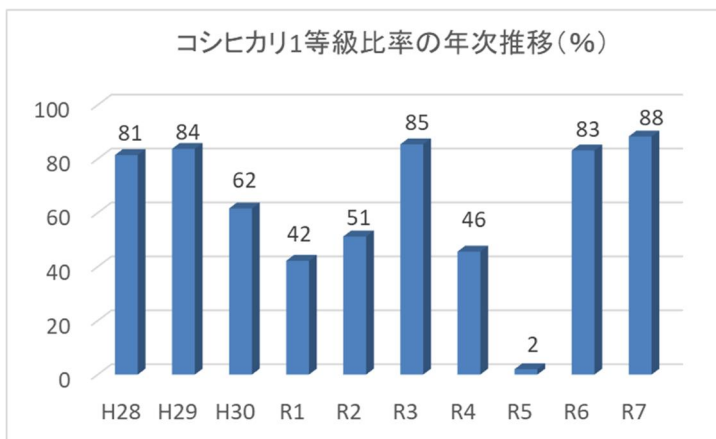


うまい！

岩船米づくり情報 No.1

令和8年3月
岩船農業振興協議会
村上農業普及指導センター

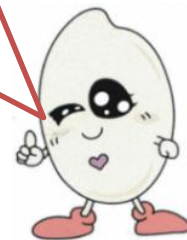
令和7年産米の作柄・品質と次年度技術対策について



JA データ集計(R7.12 末時点、CE 含む)

令和7年産岩船コシヒカリの1等級比率(カトリイバクター含む)は88%と2年続けて品質が向上し、作柄も平年作を上回る結果となりました。これも6月後半以降登熟期まで高温気象が続く中で、後期栄養確保のための追肥作業など、適切な管理が行われた成果です。

本年も岩船米のブランド維持に向けて、高品質・良食味を安定的に生産するため、以下の重点技術対策を実践しましょう！！



令和7年産「岩船米」の評価と技術的課題

〔令和7年産米の作柄・品質〕

コシヒカリの1等級比率：88.3%、作況単収指数(*)：101(下越、近年比)

〔令和7年産米の作柄・品質に影響を及ぼした主な要因〕

- 6月後半以降の高温による長草化と7月の記録的な高温、多日照・少雨による急激な葉色低下。これに対応した追加穂肥等の実施で後期栄養が確保された。(一部で渇水被害有)
- コシヒカリ出穂期頃の降雨と気温低下により、登熟初期の高温の影響を回避。
- × 倒伏や登熟期の断続的な降雨による収穫作業の遅れ。
- × カメムシ類の多発生で「部分カメ」による格落の増加(くさび米の被害を含む)。

* 作況単収指数：従来の「作況指数」に代わって導入された米の作柄を示す指標で、10a当たり収量の前年産までの5か年中3年平均(最高、最低除く)に対する当該年の10a当たり収量の比率。

令和8年度「岩船米」重点技術対策

① 初期生育(茎数)の早期・安定確保

② 適正な生育量(籾数)の確保

- 収量・品質の安定に必須である「適正な籾数を確保」するために、
- ・ 健苗の育成及び好天日に移植を行う。(老化苗の移植は厳禁！)
 - ・ 移植後早期に茎数を確保し、適期に中干しを行う。

③ 登熟期間中の稲体の健全化

- ・ 近年のような高温気象下では、後期栄養の確保のため、「追加の穂肥」と出穂後の飽水管理の徹底が必須！
- ・ ケイ酸など土づくり資材の施用により稲体を強化し、異常高温時等の登熟障害を軽減する。

* 鉄やマンガンは、ワキ(硫化水素)による根腐れやごま葉枯病の抑制効果が期待できます。

④ カメムシ類適正防除の推進

重点技術対策のポイント

1 初期生育の安定確保に向けた技術対策

(1) 健苗育成(老化苗の移植防止)

- ・ 低温条件でも初期の茎数確保が容易な 2.0 葉苗(目安は播種後 20 日頃)で植えるため、移植日に合わせた播種日を設定する。
- ・ 移植後の活着促進のため、移植 4-5 日前に苗追肥を行う。

(2) 適期移植と深植え防止

- ・ コシヒカリでは5月 10 日頃の移植を目安とし、極端な遅植を避ける。(好天日に移植)
- ・ 植付け深さは2~3cm とし、分けつの発生を促す。

(3) 適正な水管理で初期生育(分けつ)確保

- ・ 移植直後は保温的水管理で活着を促進させ、活着後は 2~3cm のやや浅水で分けつ発生を促す。(溜めっぱなしにしない！ 適宜用水を更新し、ワキの発生を抑える)

2 適期中干しで生育のコントロールと根の伸長促進

- ・ 夜干しや水の更新により、ワキの軽減とアオミドロの発生を抑制する。
- ・ 適期中干し開始(目安は移植後 30 日頃)で、生育調節と根の伸長を促進する。
- ・ 田面に小ヒビが入る位になったら、中干しを終了し飽水管理を行う。

3 登熟期間中の稲体の健全化(後期栄養の確保)

- ・ 生育診断に基づいた穂肥を実施する。(倒伏防止と確実な後期栄養の確保)
- ・ 出穂期以降は、出穂期 25 日後まで飽水管理を行う。

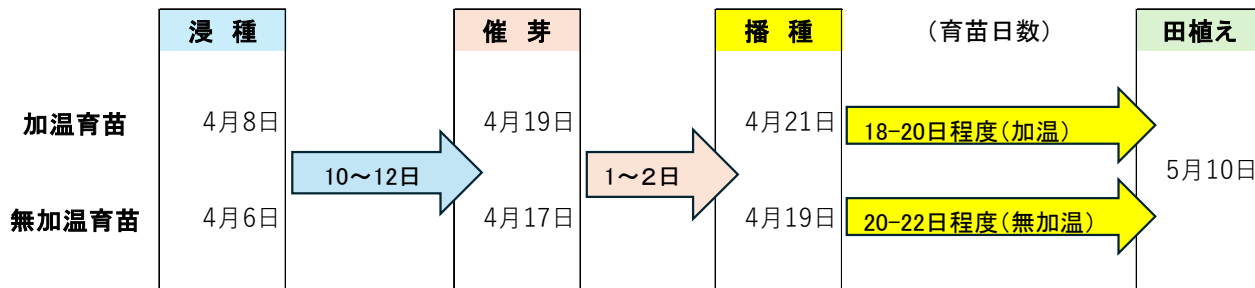
4 病虫害防除の徹底

- ・ 畦畔の草刈りと水田内雑草の防除及び本田のカメムシ類の適期防除の徹底
(くさび米の発生防止対策として、高温気象下での飽水管理の徹底)
- ・ いもち病、ごま葉枯病など常発地での予防防除の実施

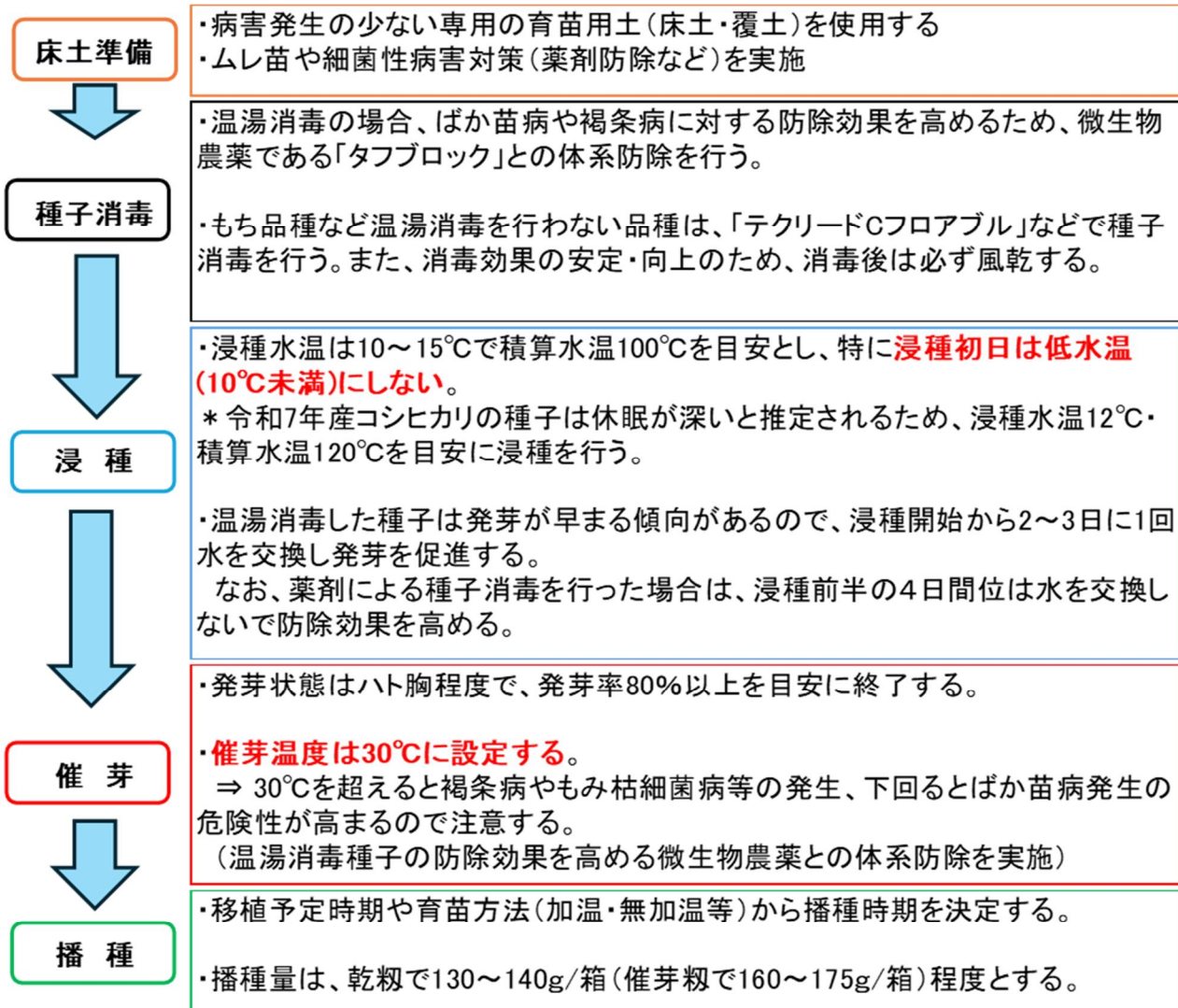
令和8年の岩船米スタート！ 育苗準備は計画的に

- ・老化苗を移植すると、活着が遅く初期生育が劣るため、分けつ発生が遅れます。浸種～播種～田植えの作業計画をしっかりと立てて、適期に播種作業を行い、健苗を育成しましょう！
- ・ハウスに苗を並べたら、被覆中でも高温にならないよう注意深く温度管理を行い、苗ヤケの発生を防ぎましょう！（ハウス内が高温となりやすい時期や条件では高温対策の被覆資材（ハイホワイトシルバーなど）が有効です。）

◇稚苗育苗作業のめやす（コシヒカリ 5月10日頃移植の場合）



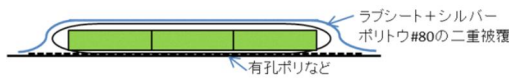
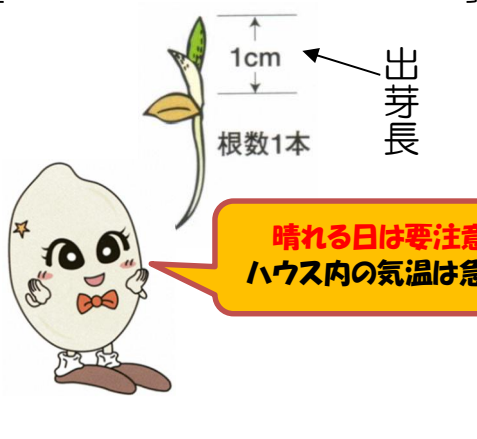
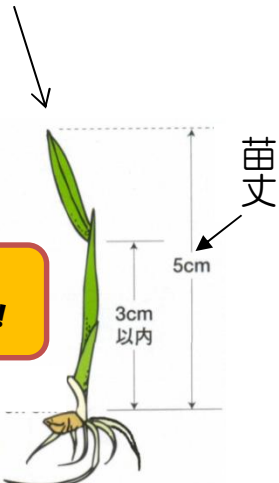
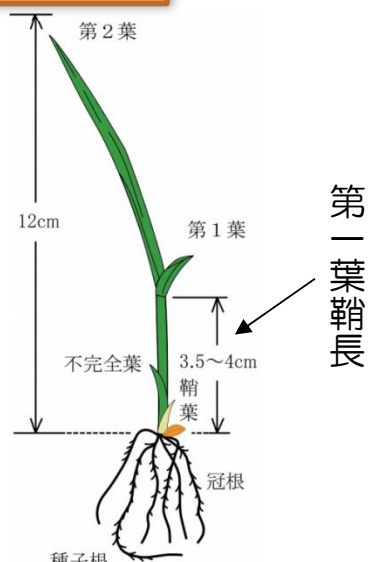
◇床土準備から播種まで



注) ・ゆきみらいの種子予措は、発芽不良を避けるため、浸種時の水温は12～15℃を確保する。また、種子消毒剤は、低濃度浸漬(200倍・24時間)とし薬液の水温を12～15℃とする。

～健苗（2.0葉苗）を育成する管理のポイント～

苗ヤケにならないよう
換気に努める

	出芽期（加温：4/21頃播種） （無加温：4/19頃播種）		緑化期	硬化期
期間	加温出芽 2～3日	無加温出芽 5～7日	2～4日	12～13日
温度	30℃ 30℃を超えない	昼：30℃以下 夜：15℃以上 夜間の低温に注意	昼：20～25℃ 夜：15～18℃ ヤケ苗に注意	昼：15～20℃ 夜：10～15℃ 日中の高温に注意
被覆等	<ul style="list-style-type: none"> 芽の伸びすぎに注意 シート被覆中は、要注意！ハウス内温度が30℃以上になったら換気 被覆資材で保温し出芽させる ラブシート+シルバーポリトウ#80の二重被覆。（高温となりやすい条件では、川村 伸太郎 などの高温対策資材で苗ヤケを防止） 		<ul style="list-style-type: none"> ラブシートのみの一重被覆 低温時は二重被覆で保温に努める。 第1葉が展開したら硬化に移る 	<ul style="list-style-type: none"> 無被覆（低温時はラブシートで被覆） 外気に慣らし、硬化を徹底する 田植え 1週間前から夜間もハウス側面を開放する
			<ul style="list-style-type: none"> 土が乾いている場合は、遅くとも午前10時までにかん水する 過湿に注意！ 	<ul style="list-style-type: none"> 硬化開始と同時にかん水し、無被覆でハウス側面は夜間も開放する（霜注意報など低温が予想されるときのみ閉める）
水管理	<ul style="list-style-type: none"> 播種時に十分かん水する 覆土の持ち上がりが見られたら、さっとかん水して緑化に移す 		<ul style="list-style-type: none"> 前半は1日1回午前中にかん水、後半は1日1～2回十分にかん水する（夕方のかん水は厳禁） 	<ul style="list-style-type: none"> 硬化開始と同時にかん水する 減水に応じて2～3回足し水する ※プール育苗はかん水作業が容易になるほか、苗立枯病等の発生を抑制することができます。
	<p>出芽終了時</p> <ul style="list-style-type: none"> 出芽長は0.5～1cmとする コシヒカリ：0.5cm こしいぶきなど苗丈が短い品種：1cm 		<p>緑化終了時</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1葉鞘長3cmで、第1葉が完全展開した時 	<p>硬化終了時</p>
生育目標				
	<p>【晴天時はヤケ苗に注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> 直射日光の強い日は早めに換気し、苗ヤケの発生を防止する ハウスのビニールが新しい場合など高温になりやすい場合は、寒冷紗等で高温対策を行う 		<p>【ムレ苗の防止】</p> <ul style="list-style-type: none"> 温度の急変（8℃以下、35℃以上）でムレ苗が発生しやすくなるので注意する 特に小さいハウスは温度変化が大きいので注意する 	<p>【田植え 4～5日前に移植前追肥】</p> <ul style="list-style-type: none"> 箱当たり窒素成分で1～2gの追肥で苗の活力を高める 基肥一発肥料栽培や初期生育確保が困難なほ場では必ず実施する 徒長苗には施用しない
その他				

※表中の日付はコシヒカリを5月10日頃に移植する場合の目安です。

～お問い合わせは、お近くのJA又は普及センターへ～